

設立と沿革

History of School of Science

1931年大阪大学が発足すると同時に、理学部は医学部とともに創設されました。国の経済的支援が得られなかったにもかかわらず、模倣的工業からの脱皮には、当時の表現で言う「基礎的純正理化学」が必須であるという先見的認識を地元大阪がもち、設立のための寄付金や基金により、理学部が設立されました。発足当初は数学、物理学、化学科の三学科でしたが、その後生物学科、高分子学科、宇宙・地球科学科が加わり現在の規模になりました。

1966年に理学部は大阪市内から現在の豊中市へ移転しました。より広い敷地と新しい環境で理学部は世界的規模の業績を数多く挙げてきました。



1996年には理学部が大きく変化することになりました。理学部の全ての教員が大学院である理学研究科の教員になったのです。こ

れは大学における学術研究がさらに高度化し、大きく国際社会へ貢献できるよう、大学院を中核とした研究・教育組織に理学部を作り替えたということ

です。授業をはじめとした理学部の活動は大学院の教員が行っているのです。

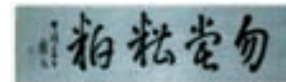


2004年には国立大学が法人化されました。大学や部局での活動の自由度があがった中で、理学部では独自の教育改革に積極的に取り組んできました。

研究と教育を重視して今日まで歩んできた理学部は数多くの業績を挙げ、世界的に著名な研究者を数多く輩出してきました。また理学部と関係するいくつもの研究施設と協力して教育・研究にあたっています。研究の最前線にいる教員たちにしかできない教育をしてくれているのです。

独創性がサイエンスの根本です。人が思い付かないこと、人のできないことをやる。そのために理学部は学生の皆さんの一人一人が知的好奇心を育て、真理探究の喜びを味わえるような教育を目指しています。

下の写真は理学部本館大講義室(D501)に掲げ



られている書です。阪大の初代総長の長岡

半太郎がしたためたものですが、「勿嘗糟粕(そうはくをなむるなかれ)」と書かれています。糟粕(そうはく)とは酒の搾りかすのことで、転じて滋味をとりさった不用物、精神のない遺物を意味します。糟粕をなめるなどはつまり、二番煎じの研究をするな、独創性を追求せよ、という意味です。

皆さんが理学部の歴史に参加してくれることが、私たち理学部教員の願いです。サイエンスは長距離レース。それも一人の走者ではなく、数多くの人間が繰り広げるバトンリレー。サイエンスの歴史は人類の歴史とともにあります。この輝かしい功績を持つリレーに今日から参加して、私たちが手渡すバトンをしっかりと受け取ってください。そしていつの日にかそのバトンを次の走者に渡してください。